

心のバリアフリー学習推進会議

スポーツをとおした心のバリアフリー学習につながる取り組み

～地域スポーツの現場から～

(参考:事例ご紹介)

(公財)福島県障がい者スポーツ協会

書記 増子 恵美

背景 1 「障害者のスポーツ環境」

- スポーツが障害者のQOLに大きな影響を与える
- 東京2020オリンピック・パラリンピックの決定後、パラスポーツと称し、パラリンピック競技種目・選手への関心、注目は高まっている



一方、パラリンピック競技種目以外、地域の障害者スポーツの理解促進は不十分

背景 2 「障害者のスポーツ環境」

障害者の運動習慣が少ない要因(実施率に見る)

- ・学校体育・日常的な運動・スポーツ活動の環境未整備
- ・運動動作能力未獲得(成長段階での経験不足)
- ・当事者への情報不足(どこで何をどうしたらよいか不明)
- ・指導者等の情報・指導力不足
- ・診療報酬改定による、入院期間の短縮化等



環境整備の必要性

試み: 福島県委託事業「運動導入教室、地域スポーツ教室」

改善策

1 運動導入教室

2 地域スポーツ教室

3 行政・教育との連携

1 運動導入教室

(毎週木曜日 17ー20時30分)

(毎月第1日曜日13ー17時)

①運動導入コース

(身体、知的、精神障害種別不問、運動をしてみたい方)

②アスリートコース

③指導者養成コース

運動導入教室 指導体制

【指導者】

- ・障がい者スポーツ指導員（支援学校教員等）
- ・障がい者スポーツトレーナー
- ・リハ・エンジニア（補装具制作士）
- ・リハ・モビリティ（福祉車両整備士）
- ・パラリンピアン

【医療との連携】

- ・障がい者スポーツ医
- ・理学療法士

導入教室の流れ

ウォーミングアップ

マット運動

(セルフ・自宅のできるもの)

- ・体操(ストレッチ)
- ・マット運動(全身運動)
- ・基本動作



集団プログラム

基本動作

(協調性を養うもの)

- ・鬼ごっこ、だるまさんが転んだ
- ・タグラグビー ほか



個別プログラム

競技別動作

- ・競技ごとの動きを段階別に
個別対応



個別プログラム内容

○運動の基本動作獲得

- ・座位「投げる」、「とる」、「打つ」、「車いす操作」等
- ・立位「体重移動」、「歩行練習」、「投げる」、「とる」等
- * 年齢、性別、障害程度により指導案を作成

○意志表示

- ・自分が何をしたいのか。意志表示する。
- ・どんなお手伝いが必要か、みんなで一緒に考える。
- ・さまざまな動きを入れる。

・その他

- ・体調管理、整理整頓、水分補給のタイミング
- ・補装具等を解体し、組み立てる。車いす、補装具の仕組みを知る。パンク修理等自立訓練も実施



2 地域スポーツ教室

- 障がいのある当事者が身近でスポーツを経験する
- 支援学校卒業後に、地域において定期的にスポーツが継続できる
- 支援学級に通学する障害のある児童と同級生の児童と一緒に参加する交流の場

* 地域(学区)のなかで育つ環境づくり *



親子で



同級生と



市長さんと

地域スポーツ教室のようす

<対象>

すべての障害と家族、一般どなたでも参加できます。

<種目>

フライングディスク、ボッチャ、キンボール、ペガーボール、ボッチャ、ハンドアーチェリースポーツ吹き矢、スラローム等

<目的>

できるだけ多くの種目を体験する。
地域の多くの人と仲良くなる。



参加者全員で



ご近所さんと



障害のあるなし
関係なく楽しむ



施設の仲間と

福島県障がい者総合体育大会出場！ 競技ごとの県大会・全国大会出場！

目標は全国大会出場！



目標がみつかった！



クラブ結成！



市民健康マラソン大会等 一般への大会参加

- 車いす部門 * 競技用 * 日常生活用
郡山シティマラソン大会、鶴ヶ城ハーフマラソン など

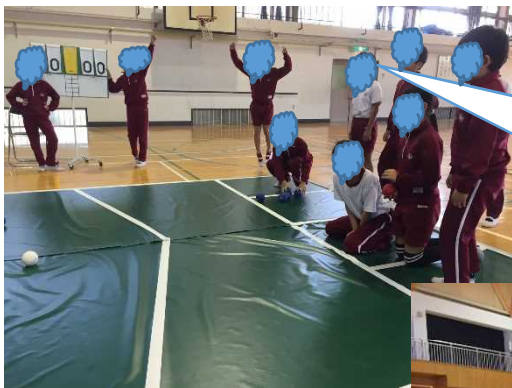
一般大会では、障がい者が参加する場合、運営側の相談を受けサポートに入り、安全に配慮する。

- * こうした一般大会出場を機に、小体連主催大会に支援学校小学部が出場することになった。



3 教育との連携

〔 教育との連携 〕



オリパラ教育
指定校での
パラスポーツ体験

総合型地域スポーツ
クラブ連携事業パラ
スポーツ体験



障害者スポーツ講義
(前後期)福島大学



パラバドミントン教室開
催協力(東日本国際大)



総合学習
「命と障害について」

民間企業主催
アスリートビジット
パラリンピアンが
やってくる！



福島県生涯学習
夏休み講座



パラリンピアン
のほか、地元の選手
たちと交流・体験

行政・競技団体等と連携協力 支援学校児童・生徒対象 ふれあいパラスポーツ体験



ウィルチェアーラグビー体験後に競技へ移行した生徒もいる

特別支援学校スポーツ大会(部活動成果の場)



スポーツ

芸術



スポーツ活動をとおした 成果① 参加者の変化(当事者)

教室に来るのが楽しみ

体を動かすことが
楽しくなった

日常生活で一人で
できることが増えた

車の免許がほしい

当事者・家族の声

大会に出場したい

外出の機会が増えた

仲間に会える
情報交換できる

できないと思っていたこと
ができるようになった

成果② 参加者の変化(児童・生徒)

僕よりみんな上手

〇〇ちゃん(障がいのある子)にやり方を教えてもらった

一緒にできることがたくさんあった

いろんな種目、用具があった

ボッチャが楽しい
もっとやりたい!

工夫をすることでできることが増えた

学校生活でも良い影響が出ている

成果③ 参加者の変化(関係者所見)

身体面

- ・動作の獲得
- ・運動機能向上
- ・体力の向上
- ・心肺機能向上

精神面

- ・笑顔が増えた
- ・仲間の存在
- ・家族と関係改善

社会面

- ・社会復帰意欲
- ・就業、就職意欲
- ・行動力、積極性
- ・自立への意欲

成功体験!

自信がつく、自信回復、挑戦心

QOL向上

参加継続

成長

ジュニア期からの運動経験を経て世界へはばたく選手

車いすバスケットボール 佐藤 聡選手
(15歳 交通事故 両下肢機能全廃)



中学生交通事故→17歳で競技開始→
ダイユーエイト本社勤務(代表選出前
2005年よりアスリート雇用(正規社
員)→現在至)(北京、ロンドン代表)

チェアスキーヤー 鈴木猛史選手
(7歳交通事故 両下肢大腿切断)



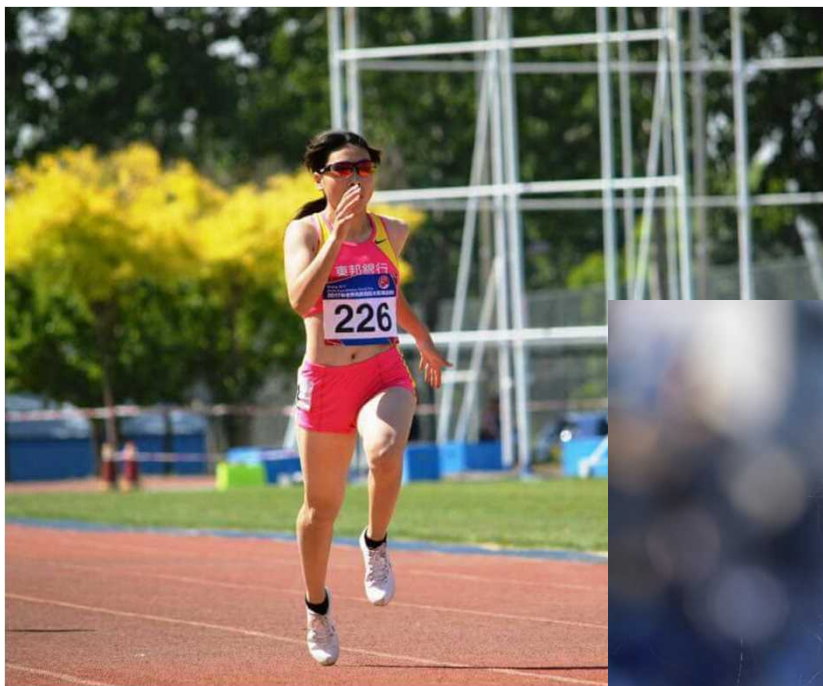
翁島小学校→水泳教室、陸上教
室(シティマラソン参加等)を経て
10才でスキー開始→猪苗代中学
校→猪苗代高校→駿河台大学→
プロアスリート(トリノ、バンクー
バー、ソチ、ピョンチャン代表)

車いすバスケットボール 豊島 英選手
(3歳 疾病による後遺症 下肢機能障害)



幼稚園→支援学校小学部→支援学
校中学部→14歳競で技開始→県立
高校→社会人(民間企業就職)→プ
ロアスリート(ロンドン、リオ代表)

～QOL向上による成長～
スポーツを経験したことで
得られる個々の成長



課題

環境の問題

障害者スポーツ施設等
拠点が無い(一般施設利用)

指導者の
不足

限定的な
開催

地域別
独立

交通の便が悪い(公
共交通機関が不便)

日程・時間
の制約

冬季の
移動
(雪)